

第18回 日本語聴覚学会 開催報告

学会長 竹内 茂伸



数年かけて準備をしてきた本学会ですが、開催中はまさに「あっという間」で気が付いてみれば学会終了からもう数週間が経過していました。本学会に参加された皆様には期間中、有意義な時間を過

ごしていただけたでしょうか。交通の便が決して良いとは言えない地方開催であるにもかかわらず、400を優に超える演題が集まり、参加者数約1800人と、まさに大盛況のうちに学会を閉会することができました。「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される言語聴覚士になる。一地域包括ケアに求められる言語聴覚士の役割一」と銘打って開催した本学会ですが、これだけ多くの言語聴覚士が一堂に集うことができたのも、ひとえに言語聴覚士が置かれた現状と未来に対する皆様の関心の表れであると感じました。

また、本学会ではデジタル抄録集やePosによるポスター発表など新たな取り組みが多い学会でした。デジタル抄録集に関しては、スマートフォンやタブレット端末を片手に会場を歩く皆様の姿を見て、大げさではありますが新たな時代の転換点に立ち会っているような、そんな気分になりました。参加された方からは「荷物が少なくなった」「パッと抄録を見ることができるのが良い」「検索が簡単にできる」などの好意的な意見を多数いただきました。同時に「使い方がいまいちよくわからない」「Wi-Fiが繋がらない」などの貴重な意見もいただいております。今後の課題も見えてきました。

期間中はさまざまな方から「一度島根に行ってみたくたんです」「明日は遊覧船に乗ってきます」「出雲大社に行ってきました」「海の幸が本当においしい！」などのお言葉を多数いただきました。私本人もさまざまな方から伺いましたし、運営スタッフもそのことを喜んで報告してきてくれたのが私としても大変嬉しく感じました。日本屈指の庭園を誇る由志園で行った懇親会では「こんな素敵な庭



企業展示



市民公開講座

園での懇親会は初めてです」「生で神楽を見ることができて感動しました」などの嬉しいお言葉をいただきました。わざわざ島根まで足を運んでくださるのだからと、学会企画段階からいわゆる「開催地を楽しむこと」をスタッフ全員で真剣に考えた結果が皆様の高評価につながったと思っています。

本学会に参加された皆様、日夜研究を続け発表してくださいました発表者の方々、快く座長を引き受けてくださった先生方、貴重なご講演をいただいた先生方、内容の濃い企業展示をしてくださいました企業担当の皆様、円滑な進行のためにご尽力いただきました運営会社のスタッフ様、臨床業務の傍ら、寝る間も惜しまず学会準備に携わった本学会運営スタッフ……、どこかが欠けても本学会は成立しなかったでしょう。言葉では到底言い表せるものではございませんが、第18回日本言語聴覚学会の学会長として本学会に関わられた全ての方々に心より厚く御礼申し上げます。



ランチョンセミナー

最後になりましたが、今後とも皆様が言語聴覚士として地域に貢献していくことができますように、誰からも必要とされる言語聴覚士になれますように、心からお祈り申し上げます。



第19回 日本言語聴覚学会のお知らせ

第1報

皆さま、こんにちは。明年、富山県で第19回日本言語聴覚学会を開催いたします。今回は、テーマ及び会期、会場についてお知らせ申し上げます。

さて、テーマは、「言語聴覚療法の源流と未来」といたしました。これまでの言語聴覚療法の歴史に触れながら、未来へ向けてまた新たな成果を残していこうとの思いをこめてこのテーマとしました。

会期や日時、会場は、以下のとおりとなっております。

会 期:平成30年6月22日(金)~23日(土)

会 場:富山県民会館・
富山国際会議場



内容は、特別講演Ⅰ・Ⅱ、教育講演、講演、シンポジウム、アドバンスセミナー、ランチョンセミナー、協会企画などを計画しています。

一般演題は、300題を目標に募集いたします。これまで取り組んでこられた臨床の成果や基礎研究から臨床研究まで幅広く、ご発表いただければ幸いです。

また、6月の富山県は、シロエビやホタルイカなど地元のをご賞味いただけます。天然の生簀^{いけす}と呼ばれる富山湾の豊富な海の幸とともに“おもてなし富山”の県士会員一同が皆さまのご来県を心よりお待ちしております。

一般社団法人 日本言語聴覚士協会 理事
日本赤十字社 富山赤十字病院
会長 中野 徹